

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
○子ども一人ひとりを大切にし、信頼と愛情に満ちたぬくもりのある学校 ○徳・体・知の調和のとれた国際感覚豊かな子ども 【徳】仲良く助け合うやさしい子ども 【体】心身ともに健康でたくましい子ども 【知】自ら学びよく考えるかしこい子ども ○確かな社会性を基盤とする豊かな「人間力」を備え、教育公務員としての自覚と向上心を持ち続ける教職員		新学習指導要領に適応した「特別な教科道德」と人権教育を柱に、真に学校教育目標を実現する教育活動の推進	○学校教育目標に沿った、研究主題・方法・組織に改善し、到達点を明らかにした研究を行う。 ○現行の部会を整理再編し、教育活動の効率化を図る。
		不登校・登校渋り児童の減少	○学校の教育活動すべてにこの課題を位置づけ、すべての職員が全ての分掌で具体的な取り組みを実践する仕組み構築する。 ○SC及びSSWとの連携と効果的な活用を図るため、学校側から積極的な働きかけを行う。
		新学習指導要領の理念と教育課程に基づいた教育活動の推進と働き方の見直し	○新教育課程に基づいた教科間連携や行事等の整理を行う。 ○校務分掌を改善し、無理や無駄のない効率的な学校運営システムを構築する。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
円滑に登校できない児童の減少を図る。	QUアンケートや生活アンケート等の結果を分析し、具体的な対応を図るための時間を調査ごとに設定する。	・QUアンケートについては前年度より回数を増やして取り組んだが、結果分析や方針策定に資する時間の設定が、思うように確保できなかった。 ・教育相談部会が定着し、児童の情報共有に効果があった。 ・遅刻欠席については、毎日、担任→保健室→管理職と確実に共有し、相互に連携・連絡を取りながら実態把握を行った。放課後、昼休み等に教員が家庭訪問を行うことが増えた。 ・実際に年度初めに設定した21名については11名が改善あるいは改善傾向にある。	
	定期的に要支援児童の把握と職員間での共通認識を図る体制を組織し、月1回の教育相談部で対応検討を行う。		
	理由不明の欠席は必ず家庭と連絡を取り、連続3日以上欠席の場合は家庭訪問を必ず行う。		
	円滑に登校できない児童数が前年比50%に減少する。【対象;H29末26名(うち6年5名)】		
徳育・体育・知育のバランスがとれた国際感覚豊かな児童を育てる。	学校評価(内部評価)の「すすんであいさつや優しい言葉かけができています」の肯定的評価が前年度(92.3%)を上回る。	・「進んで挨拶」「優しい言葉かけ」「認め合い」の肯定的な内部評価は81.1%と、成果目標値を下回った。 ・各学年とも2学期以降、継続して課題に応じた体力向上のプログラムを継続している。 ・分割授業や個別指導など、工夫して個に応じた指導に取り組むことができた。 ・「自学」については肯定的評価が94.7%と設定目標を上回ったが、「あいさつ」が81.1%、「そうじ」が88.5%と目標に到達できなかったが、教師の判断基準が高くなったという要因もある。	
	体力テストから得られた結果に基づき、各学年の課題に応じた体力向上の取組を継続して実施している。		
	全ての学年で、学力低位層の児童に対する個に応じた指導や支援が行われている。		
学校管理下における怪我を減少させ、安心安全な学校生活を保障する。	あいさつ・掃除・自学についての内部評価・児童アンケートの肯定的回答がそれぞれ90%を上回る。	・管理職は毎日、学校全体で月1回の安全点検を行い、目標通り。瑕疵による事故を0にすることができた。 ・全職員共通した指導を徹底してきたが、廊下歩行の肯定的評価は34.4%にとどまり、本校最大の生徒指導・安全指導上最大の課題となった。感覚でなく実態をみつめた数字であると考えられる。 ・縫合は3件に止まったものの、骨折が25件と目標に至らなかった。休み時間のボール遊びによる指の骨折が多かった。 ・年間計画上の登下校指導はもちろん、緊急対応やメール配信については、必要に応じて迅速かつ適切に対応できた。	
	毎月の安全点検や管理職を中心とした定期・不定期の校内巡視等により、瑕疵による事故が0になる。		
	廊下歩行の内部評価と児童評価の肯定的評価がそれぞれ70%を上回る。(H29内部評価;62.5%/児童評価;未集計)		
学校管理下における骨折及び縫合を要するけがが、年間12件以下になる。			
児童の安全を守るための登下校指導や緊急時のメール配信等が計画的かつ適切に行われている。			
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
○挨拶運動は地域も一緒に取り組めるとよい。先生方の指導が行き届いているようだ。 ○今年度の評価基準設定が高かったとのことだが、目標は高く努力してほしい。 ○挨拶は、まだ声が小さい子どもも多いが、以前に比べればかなり良くなっていると感じている。 ○大規模校ならではの課題を抱えている中で真摯に学校教育に取り組んでいただいていると感じている。家庭・地域も挨拶運動に取り組みたい。 ○児童が増える中、心配りに感謝している。			